

CHANDLER™ LIMITED

TG RACK MIXER



取り扱い説明書

(株)アンブレラカンパニー

www.umbrella-company.jp

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

このたびは CHANDLER LIMITED TG RACK MIXER をお買い上げいただき誠にありがとうございました。
このユニットは U.S.A メイドで全てハンドワイヤーによりアッセンブルされています。
このミキサーは 100% ディスクリートのトランジスタサーキットで構成され、トランスフォーマーを使ったビ
ンテージデザインを精巧に再現しています。

CONNECTIONS



CHANDLER LIMITED の TG RACK MIXER は全ての接続口にトランスフォーマーバランスの XLR タイプの入力が用意されています。全て 2 番ホットの仕様です。

POWER SUPPLY



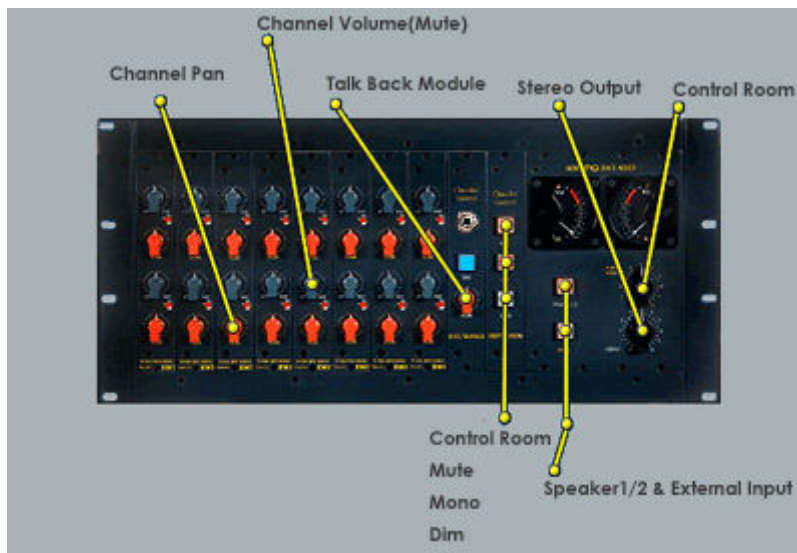
専用の別売 3amp 仕様の外部パワーサプライを使用します。以下のような構成になっています。

- 1) chassis and audio ground
- 2) 48Volt
- 3) +28Volt
- 4) +28Volt

グラウンドについて

パワーサプライには2つの黒色のバナナコネクターが用意されています。ソリッドワイヤーでこのオーディオグラウンドをアースグラウンドに接地させることができます。これは貴スタジオの環境で選択してください。ノイズフロアの低い方を選択してください。

The Modules



CHANNEL PAN

合計 16ch の各チャンネルのパンニングを調整します。

CHANNEL VOLUME

合計 16ch の各チャンネルのボリュームを調整します。DAW のサミングミキサー（ミックスバッファ）として使用する場合には通常はフル（ユニティーゲイン）で使用し、DAW ソフトウェア上からミックスのオートメーションを行います。またこのノブは引っ張るとそのチャンネルを MUTE するように設計されています。

CHANNEL LED

各チャンネルにはアクティブチャンネルを表す LED が装備されています。CHANNEL VOLUME ノブを引っ張ってチャンネルを MUTE した場合にはこの LED が消灯します。

TALKBACK MODULE

トークバックモジュールは 1/4"フォーン入力、トークバックスイッチ、トークバックゲインで構成されています。トークバック用のダイナミックマイクロホンをフォーン入力に接続して、ゲイン調整を行います。トークバックスイッチは押している間だけアクティブとなり、自動でコントロールルーム出力を MUTE にします。トークバックマイクからの信号は STEREO OUT に流れます。スイッチが自照し視覚的にもトークバックマイクがアクティブな事を確認できます(トークバックスイッチを押すと、自動的に Control Room の MUTE スwitchも自照します)。

CONTROL ROOM

TG2 サーキットで構成されるコントロールルームへの出力(STEREO OUT への出力ではありません)はフロントパネルから MUTE、DIM、MONO の 3 タイプのスイッチコントロールが可能です。MUTE はコントロールルーム出力への信号をミュート、DIM では 12dB のレベルダウンを実行します。MONO は通常フェイズキャンセレーションのチェックなどに使用しますが、60 年代風のモノラルサウンドを試したい時にももちろん使えます！VOLUME はメーターモジュールの下に搭載されています。

BUSS/VOLUME

パッシブのサミングサーキットのゲインメイクアップにも、もちろんあの TG2 サーキットが使用されています。ステレオバスのボリュームコントロールはメーターモジュールの下にロータリー・コンソール・フェーダーで用意されています。TG RACK MIXER のリアパネルの出力は STEREO OUT、CONTROL ROOM OUT とともに L/R × 2 系統装備されています。

例えば以下のような接続方法が考えられます。

CONTROL ROOM OUT(L/R) 1 --- スモールモニタースピーカーの L/R へ
CONTROL ROOM OUT(L/R) 2 --- ラージモニタースピーカーの L/R へ
STEREO OUT(L/R) 1 --- CUE 出力としてミュージシャンモニターへ
STEREO OUT(L/R) 2 --- ヘッドホンアンプなどへ

この接続方法では CONTROL ROOM のスピーカーを 2 系統接続しており、SPEAKER 1/2 スイッチで切替モニタリングが可能となります。

また 2 つのボリュームは

Control Room --- コントロールルーム出力(主に SPEAKER1/2)のボリューム調整をステップコントロール可能です。

Stereo Output --- 2 系統用意されているステレオ出力ペアのボリュームがコントロールできます。もちろん高音質なステップロータリースイッチの仕様となっております。

VOLUME は系統は同じですが 2 ステレオ分用意されており、それぞれ独立した VOLUME コントロールを行うことが可能です。1 つをメイン出力(スピーカーへ)、もう 1 つをヘッドホンアンプ等に接続すると 2 つのボリュームコントロールを便利に利用できます。

METER MODULE

-20~+3dB を読み取れるスタンダードな VU メータです。

APPLICATIONS



MIXER GAIN STRUCTURE

通常の適切なゲイン設定を行いたい場合にはインプットを調整して VU メーターがアベレージで 0 を指すよう調整します。その後に Control Room 出力のボリュームを調整してください。もちろんアナログの素晴らしい倍音を楽しむためにステレオバスに過大に入力させて、アナログならではのスムーズなオーバーロードサウンドを得ることも可能です。美しいオーガニックなカラーが魅力です。

EXTERNAL INPUT

フロントパネルにあるこのボタンは様々な重要なコンビネーションをもっています。この EXTERNAL INPUT をプッシュするとコントロールルーム・セクションをミックス・セクションから切り離します。例えば簡単な例ですと CD プレーヤーの出力が EXTERNAL INPUT の L/R に接続されている場合に、このボタンをプッシュすると CONTROL ROOM 出力に CD プレーヤーの信号が流れます。また次項のような STEREO INSERT に利用することも可能です。

STEREO INSERT USING EXTERNAL INPUT

上記したように EXTERNAL INPUT スイッチが有効な場合には STEREO BUSS と CONTROL ROOM セクションがセパレートされます。これを利用してマスターに対してトータルコンプなどのアウトボードをインサートすることも可能です。EXTERNAL INPUT のスイッチを有効にし、STEREO BUSS L/R から外部エフェクターなどに接続し、その信号を EXTERNAL INPUT の L/R に戻します。

SUMMING USING EXTERNAL INPUT

また TG RACK MIXER を DAW のサミングミキサーとして使う場合には EXTERNAL INPUT に DAW のステレオミックスを入力すると良いでしょう。EXTERNAL INPUT スイッチを有効にすると DAW のステレオミックスを、無効にすればサミング(ミックスバッファー)された音質を聞くことが可能です。その他アイデア次第でこの EXTERNAL INPUT を便利に利用することができるでしょう。

TECHNICAL NOTES

SWAPPING MODULES

もしモジュールをチャンネル間で交換したい場合には、必ずミキサーの電源をオフにしてから行ってください！更に電源をオフにした後、約 5 分程待ってから必ずモジュールを交換してください。この行為によって機器に大きなダメージを与えてしまう事になりますのでご注意ください。

このような技術的行為については必ず弊社技術部までご相談ください。